

特定非営利活動法人なかよし 2022年度事業報告書

2022年4月1日から2023年3月31日まで

1. 事業の成果

(1) 事業所

①職員体制

職員体制については、2022年度を通して3名の常勤職員の退職、4名の非常勤職員の退職がありました。常勤職員のうち、2名は自己都合による退職、1名は定年による退職（継続して非常勤職員として勤務）でした。これらの退職に伴う常勤職員の採用については、4月に1名、8月に1名、11月に1名の職員を迎えることができました。また、非常勤職員の採用については、4名を採用し、体制を整えました。さらに、7月には職員1名が産休・育休のため休職となっています。法人全体の職員配置としては、「ひまわりの家」「元気ハウス」でおおよそ1名分の加配になっており、提供している福祉サービスの質は高まっていると感じています。

②事業所の体制

昨年度末でこれまでおこなってきた法人改革もほぼ完了し、5月1日付で「グループホームさくら」の変更をしました。この変更で、「グループホーム吉津」が「グループホーム戸田」の1階へ移転し、グループホームの支援を若干ながら集約することができました。

また、デイサービスセンターなかよしの定員を29名から24名に変更することで、現状応じた運営に変更することができたと感じています。その他として大きな事業所の変更はなく、安定した体制で運営しています。

③法人におけるICTの活用

今年度もMicrosoft Teamsによる事業所間の連携を継続しています。Teamsを活用することにより、同法人内の利用者情報の共有が円滑になり、よりきめ細かな支援が可能になっています。

(2) 法人財政について

法人全体として、障害福祉事業による健全財政を目指し、支援の質の低下が起きないための人員配置等、条件整備を確保しながら収入の向上を目指しました。今年度は、法人全体の改革が完了し、新たな体制での1年となったため、計画していた収入を確保することができ、経常収支としては、大幅な増収に転じることができました。

今年度の経費として、「デイサービスセンターなかよし」の借入金及び利子が今年度は2年目となり、残り8年の返済となっています。また、「グループホーム吉津」の移転のため、これまでグループホームの事務所及び相談支援事業所として使用していた「グループホー

ム戸田」の1階部分の改修費が必要となりました。

その他の運営面では、就労継続支援 B 型利用者数の減少、グループホームの空き状況があります。この地域における新たな B 型事業所及びグループホームの開設が続いており、利用者の確保が難しい現状に対する対応策を考えなければならないと感じています。

(3) 労働環境の整備について

物価高騰に伴い、臨時処遇改善加算（ベースアップ支援加算）等の申請をおこない、職員全員に対する加算の部分の見直しをおこないました。

また、8月には中小企業診断士の企業診断を受けることができました。法人運営や展開などについてヒアリング調査を受け、その結果について専門職の視点からまとめて頂き、今後の法人運営を考える貴重な資料を得ることができました。

(4) 学習会・研修会・全体会について

今年度も継続して法人内の学習会を積極的におこなうことができるように、オンライン等を取り入れながら体制づくりをしてきました。また、外部の学習会についてもオンラインで参加する職員が増え、法人全体の支援の質の向上を図る取り組みを継続してきました。法人全体で取り組んだ活動については以下の通りです。

5月12日 事例検討会「就労移行支援事業所の利用者に対する支援」

SV 明治学院大学 金園景先生

7月12日 事例検討会「就労を望んでいる利用者に対する就労支援」

SV 中部学院大学 竹村忠憲先生

8月17日 学習会「発達障害のある人々に対する理解」

講師 中部学院大学 竹村忠憲先生

9月15日 全体会「災害について」の講義と各事業所の対応

10月25日 事例検討会「問題解決しない事例検討会」

SV 日本福祉大学 田中和彦先生

11月8日 新入職員研修会

2月16日 全体会 2022年度虐待防止研修会「虐待防止に向けた取り組み」

これらの研修会の他に、月に1度同朋大学吉田みゆき先生をお招きして、3事業所合同のSSTを開催しました。通常の「ひまわりの家」以外にも2月「デイサービスセンターなかよし」、3月「元気ハウス」でも開催し、より多くの利用者にSSTを知ってもらう機会をつくりました。

(5) あいされん・きょうされんの活動について

4月15日 第1回あいされん運営委員会

5月12日 きょうされん愛知支部総会

6月17日 第2回あいされん運営委員会

7月15日 第3回あいされん運営委員会

- 9月16日 第4回あいされん運営委員会
- 11月18日 第5回あいされん運営委員会
- 12月16日 第6回あいされん運営委員会
- 2月10日 第7回あいされん運営委員会
- 3月17日 第8回あいされん運営委員会

オンラインでの参加が中心となりましたが、活動参加を継続しました。一方で今年度は愛知県・名古屋市の懇談会には参加できませんでした。スケジュールの確認や調整は課題となりました。その他、きょうされん夏季・冬季物資販売や第46次国会請願署名活動に参加しました。署名活動では、利用者や家族、関係機関に協力をいただき、500筆・募金19,237円を集めました。メンバーも積極的に関わられるように署名活動や請願項目の学習会を開催していくことが今後必要と考えます。

(6) 地域連携について

今年度も法人として中川区自立支援連絡協議会に参加しました。

* 広報啓発部会

- 6月13日（事例検討会） 6月27日（チームメッセンジャー養成講座）
- 3月24日（1ヶ月間の福祉展示 at 中川区役所）

* 相談支援部会

- 4月22日（地域生活支援拠点えくら見学） 6月13日（事例検討会）
- 8月2日（西養護学校との進路学習会） 8月24日（地域移行支援に関する勉強会）
- 8月26日（西ブロック相談支援員合同会議） 9月20日（ストレスコントロール）
- 10月24日（事例検討会） 10月26日（子ども応援委員会）
- 12月19日（自立支援連絡会での課題の検討） 12月27日（支援専門員との連携）
- 1月10日（成年後見制度について） 1月19日（精神疾患と社会制度）
- 1月23日（虐待防止研修） 2月15日（病院と相談支援事業所との連携）
- 2月27日（西ブロック相談支援員合同会議）

* 人材育成部会

- 6月13日（事例検討会） 9月20日（ストレスコントロール）
- 10月24日（事例検討会） 1月23日（虐待防止研修）
- 3月13日（第17回中川区自立支援連絡協議会総会）

* 防災部会

- 5月30日（災害時用配慮者支援ガイドブックの改定） 9月26日（BCP策定）
- 11月2日（消防用設備等の説明及び火災図上訓練） 12月9日（出張防災訓練）

(7) 広報活動・地域交流について

今年度は夏号・秋号・新年号の計3回で法人ニュースを発行しました。昨年度同様、正会員や賛助会員に加え、約200ヶ所の県内の関係機関や事業所にニュースを送付しています。法人ニュースは利用者と職員が合同で組織している編集委員が中心となって作成して

いるため、利用者の意見が反映される貴重な場となっています。今後も利用者と職員が協働しながら作成していきたいと思います。

今年度は、これまで課題となっていた法人ホームページをリニューアルすることができました。法人内でもアップデートすることが可能であるため、法人のイベント等についてもホームページに記載することができるようになりました。

地域交流については、平和行進は行われませんでした。7月29日・30日の「万場祭り」に加え、10月29日の「おさんぽフリマ」が再開されました。また、10月10日には、かねてから計画していた「なかよしマーケット」をひまわりの家にて開催することができました。子育て支援拠点事業をおこなっている「ゆるまる」さんに加え、「やまびこ」からも野菜を出店していただき、メンバーだけではなく、地域の方々にもご参加いただくことができました。今後も定期的にイベントを開催し、地域の繋がりを構築していきたいと思います。

(8) 実習生について

今年度は、中部学院大学から精神保健福祉士の実習生2名、同朋大学から精神保健福祉士の実習生1名、社会福祉士の実習生2名を受け入れました。それぞれの事業所で学生対応をすることにより、法人内の職員の意識も高まり、自身の実践を振り返る機会にもなると考えられるため、今後とも受け入れられる範囲で、福祉の現場で働くことを希望する学生たちへの指導をおこなっていききたいと思います。

(9) コロナウィルス感染症について

2022年度は、グループホームあらこ1名・グループホームかの里2名・グループホーム戸田1名の利用者の感染が確認されたため、利用者を移動してコロナ対応居室を設置し、訪問看護と連携して対応しました。また、1月に「デイサービスセンターなかよし」で2名の職員の感染が確認され、1月11日～1月14日までを自主休業としました。コロナウィルス感染症対策下での運営も3年目となり、感染が確認されても混乱することなく対応することができたと思います。

(10) 研究活動・出張授業について

今年度はコロナウィルス感染症が落ち着いてきたこともあり、複数の研究者の見学及び研究調査への協力をすることができました。

- ① 12月19日：長野大学・日本福祉大学・明治学院大学からの視察
- ② 2月20日：韓国 慶尚国立大学・山梨学院大学・同朋大学からの視察
- ③ 8月24日・25日：筑波大学「障害のある人の生きがいに関する調査」

グループホームの利用者2名へのインタビュー

さらに、Zoomによるゲスト講師として、明治学院大学の精神保健福祉士養成課程の授業（7月6日）に「ひまわりの家」利用者が参加しました。

(11) 正会員・賛助会員

正会員 29名

賛助会員 11名

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

①就労継続支援事業所

*めいせい元気ハウス（名古屋市中川区西伏屋2丁目1419番地）

平均利用者数15.5名（昨年度17.2名）、職員数7名（非常勤を含む）

*めいせいひまわりの家（名古屋市中川区戸田5丁目304番地）

平均利用者数16.9名（昨年度17.2名）、職員数7名（非常勤を含む）

②共同生活援助事業所

*グループホームなかよし（名古屋市中川区戸田3丁目1812-1）

平均利用者数25.3名（昨年度24.3名）、職員数17名（非常勤を含む）

③デイサービス型地域活動支援事業

*デイサービスセンターなかよし（名古屋市中川区法華1丁目58）

平均利用者数15.6名（昨年度13.4名）、職員数7名（非常勤含む）

④特定相談支援事業所

*相談支援事業所なかよし（名古屋市中川区戸田5丁目304番地）

計画作成総数216件（昨年度213件）

計画60件・モニタリング152件。児童計画1件・児童モニタリング3件

3. 会議の開催に関する事項

(1) 理事体制

新型コロナウイルス感染症下での法人運営も3年目となり、今年度はオンラインと対面を取り入れたハイブリッド形式で理事会を開催しました。2021年度の通常総会については対面で実施することができました。2022年度に承認された理事8名、監事1名の役員体制で法人の安定運営に向けて取り組みました。

(2) 総会

第23回特定非営利活動法人なかよし総会

日時：2022年6月12日 10:00~12:00

場所：特定非営利活動法人なかよし本部

正会員総数 30名

出席者数：19名（表決委任者10名）欠席者1名

第一号議案 2021年度事業報告に関する件

第二号議案 2021年度決算報告・監査報告に関する件

第三号議案 2022年度事業計画に関する件

第四号議案 2022年度活動予算に関する件
第五号議案 2022年度役員に関する件

(3) 理事会

開催場所：特定非営利活動法人なかよし

開催時間：10:30～12:30

第一回	2022年5月30日	通常開催
第二回	2022年7月25日	通常開催
第三回	2022年9月26日	通常開催
第四回	2022年11月28日	通常開催
第五回	2023年1月30日	通常開催
第六回	2023年3月27日	通常開催

2023年4月1日

めいせいひまわりの家

【事業実績】

月別・年間利用者数

年月	開所日数(日)	利用者延べ数 (名)
2022年 4月	20	370
2022年 5月	19	349
2022年 6月	23	391
2022年 7月	21	367
2022年 8月	21	349
2022年 9月	21	377
2022年 10月	21	368
2022年 11月	22	381
2022年 12月	20	326
2023年 1月	20	327
2023年 2月	20	310
2023年 3月	23	342
合計	251	4,257

定員 20 名 登録者数:25名(新規登録2名 退所者3名)2023.3.31 現在

【作業内容】

・山田加工所(自動車部品のバリ取り)・和泉屋(タオル折り作業)・本多タオル(タオル折り作業)・斉藤商店(タオル折り作業)・岩月食品(シール貼り)・横井ニット(ニット帽の検品・梱包)・ロード(お好み焼・焼きそば)・古紙回収(ダンボール回収・鉄)・明治学院&法人ニュース発送業務

	売上合計(円)	材料代等(円)	収入実績(円)	工賃合計(円)	支払い 人数(名)	平均工賃(円)
4月	265,344	9,226	256,118	256,100	26	9,850
5月	234,329	26,172	208,157	239,620	26	9,216
6月	300,640	17,598	283,042	281,170	26	10,814
7月	313,679	26,291	287,388	281,800	25	11,272
8月	395,253	17,836	377,417	260,030	26	10,001
9月	319,099	20,211	298,888	318,500	24	13,271
10月	262,842	48,006	214,836	275,460	27	10,202
11月	430,045	72,673	357,372	282,980	25	11,319
12月	330,298	43,358	286,940	271,220	25	10,849
1月	186,608	35,346	151,262	240,190	24	10,008
2月	236,838	16,350	220,488	226,530	25	9,061
3月	306,157	39,473	266,684	252,300	24	10,513
計	3,581,132	326,172	3,254,960	3,185,900	303	10,544

【組織運営】

- ① 利用者の安定した通所利用が収益に繋がるため、達成時期などを明確に示した個別支援計画に沿って職員間の共通意識・連携を高め、適切で共通した支援・声掛けを徹底していきます。また、個人のペースに合わせて通所がしやすい声掛け・送迎支援等を実施し、環境を整えていきます。
➡安定した通所利用を目指し、不定期利用の利用者に対し欠席時対応や来所時の面談を行い、各々のペースに合わせた通所利用ができるよう促すことができました。職員間で支援の方向性を統一し声掛けしていくことは今後の課題と思います。送迎利用に関しても雨天時や体調に合わせて昼食後の送迎を行うなど対応しました。
- ② 一日平均利用者数を増やし作業の安定化や収入の増加を図ります。
➡2021年度は一日平均17.3名（開所日数245日、延べ人数4,222名）でありましたが2022年度は一日平均16.9名（開所日数250日、延べ人数4,257名）と微量でありましたが減少しています。上半期は比較的安定していましたが下半期利用者の退所や体調不調が続いたことが原因と考えられます。しかしながら開所日数を増やしたことにより延べ人数は増えたことは成果と思います。作業の安定化や収入増加も達成できていると思いますが継続していくことが課題です。

【実践】

- ① 昨年同様、工賃向上計画の目標に沿って、利用者の平均工賃アップを目指します。現在請け負っている、利用者が慣れ親しんだ作業を効率よく数をこなしていくことができるよう工夫していくと同時に手のかかる作業にも自信をもって取り組める利用者が増えるようにし、作業量を増やし授産収入増加を目指します。併せて一般就労等を希望される利用者に対し適切な支援ができるように職員の研修参加によるスキルアップや相談支援事業所等の他機関との連携をし、対応していきます。
お好み焼き事業（ロード）では、力を合わせ、暖かな接客をしていけるようになっています。お客様の家への配達も、定着しており好評なため継続していきます。また、お好み焼き、焼きそば等既存のメニューだけでなく新たなジャンルの商品も販売に向け開発していきます。
ロードの利用者の安定を第一に、以前からの目標であった移動販売に対しても継続し準備を取り組んでいきます。そのため販売できる場所を提供いただける機関等の募集、営業をしていきます。
➡2021年度平均工賃が8,380円であったのに対し2022年度は10,515円と増加し、目標としていた平均工賃1万円以上を達成することができました。利用者の自信や目標向上にも繋がっていると感じます。それに伴いステップアップを考えられている利用者もいるため職員のスキルアップが今後の課題と思います。
- ② 普段の生活を通し、利用者同士のコミュニケーション能力や団結力を養い、お互いを思いやる仲間意識や役割・責任を強く持ち行動、生活できるように取り組んでいきます。コミュニケーションを通じて、常に笑顔が耐えない事業所作りをしていきたいと思っています。
➡身体的・精神的な不調により乱れてしまうことがありましたが、作業や班活動を通し仲間意識の向上や協力することを職員、利用者ともに意識し雰囲気良く過ごすことを目指すことができました。
- ③ SST など利用者と共に学び成長できるような取り組みを実施・提供することでリカバリーを意識した活動を実践していきます。
➡SSTへの参加を促し参加することで、円滑な対人関係について職員、利用者ともに考えることができました。
- ④ HPやSNSを活用し地域との連携を図るとともに、広報活動を実践していきます。
➡Instagramに日々の活動を投稿することで地域の方や関係機関に活動を周知することができたと思います。利用者が写っている写真が少ないため増やして雰囲気を伝えていくことが課題と思います。可能であれば職員のみならず利用者も一緒に投稿に携わってもらえると良いと考えます。

【活動】

きょうされん・あいされんの研修・会議や中川区障害者自立支援連絡協議会を通し他の事業所・職員とのネットワークを広げていきます。

➡コロナ禍や案内の確認不足により参加できないことが多かったように思います。スケジュール確認、調整を行い所属意識を持ち参加していければと思います。

【年間行事】

コロナが落ち着いている時期を見計らいイベントを行いました。コロナ禍により外出レクに制限があったため、余暇や息抜きできる時間を作るが必要と考えます。

万場祭り、なかよしマーケット、おさんぽプリマ、円空市に出店し、おもちゃやお好み焼き・焼きそばを販売することで地域に事業所や活動を知ってもらうことや授産収益の増加をすることができました。職員のみならず利用者も一緒に楽しみ取り組めたことは良かったと思います。

なかよし交流会でも実行委員を利用者にもしてもらおうことで、利用者主体でやることや利用者の役割意識を向上させることができました。

2022年度 めいせい元気ハウス事業報告書

2023年4月1日

【事業実績】

月別・年間利用者数

	開所日数	利用回数	登録人数	利用人数	月平均利用者数
4月	20日	327回	26名	21名	15.5名
5月	19日	312回	26名	21名	16.4名
6月	22日	356回	26名	20名	16.1名
7月	21日	333回	26名	20名	16.6名
8月	22日	327回	25名	21名	15.5名
9月	21日	340回	25名	22名	15.4名
10月	21日	348回	25名	22名	15.8名
11月	22日	361回	25名	22名	16.4名
12月	20日	336回	25名	22名	15.2名
1月	20日	312回	25名	22名	14.1名
2月	20日	315回	25名	23名	13.6名
3月	23日	344回	23名	22名	15.6名
計	251日	4011回	302名	258名	15.5名

年間平均利用者数 <開所日 251日>

15.5名

登録者数（新規数・退所数）

新規利用者 2名 入院 0名 退院 0名 死亡 1名

退所者 3名（A型事業所 1名 自宅療養2名）

*元気ハウス周辺に居住している方から日中活動の場所を探していると訪問看護スタッフと見学し、相談員を通して利用が決まった。しかし体調の波等から継続的な利用に繋がらなかった。利用者が利用しているグループホームからの紹介で新規利用に繋がった方、昨年度から元気ハウスを利用され、今年度に入り活動とともにかねてより希望されていた介護職員初任者研修を受講、資格取得し一般就労を目指してA型事業所へ移行された方もいた。長く体調不良のため利用できずにいた利用者が、病状が思わしくなくいったん利用を中止し、治療に専念するというケースもあった。

【事業内容】

トルク	1,187,840 円	
ゲインズ(贈答品タオル等梱包)	268,522 円 (12月まで)	
パローレ (箸セット等軽作業)	31,225 円 (2月から)	
アドニス(贈答品用紙梱包)	26,274 円	
キーホルダー作成	13,480 円	
銀のさら(箸セット)	236,980 円	
ひまわりの家業務委託分	72,468 円	
月刊誌発送業務(業務委託分)	398,880 円	
家族会資料発送業務	5,500 円	
その他 (古紙回収・清掃業務等)	103,282 円	
		合計 2,344,451 円

月別工賃支給額

	給与対象人数	工賃実績	給与合計
4月	21名	215,579円	215,300円
5月	21名	189,022円	188,500円
6月	21名	213,429円	212,000円
7月	20名	181,764円	181,300円
8月	20名	169,781円	168,300円
9月	20名	172,385円	179,400円
10月	21名	204,785円	198,500円
11月	21名	222,199円	211,300円
12月	21名	219,806円	210,500円
1月	21名	224,082円	203,500円
2月	21名	139,067円	178,400円
3月	20名	176,946円	174,900円

平均工賃 8683.8 円

【年間スケジュール】

*新型コロナウイルス対策を念入りに行いながら、1本化以降初めての一日レクリエーション(名古屋港水族館)を実施することができた。10月のなかよしマーケット、3月の全体交流会への参加が普段のレクリエーションでは参加されない方も「行ってみようかな?」と前向きに活動に参加ができ、参加後には「楽しかった」「また参加したい」という声が聞けたことは大きな収穫だと思われた。

*7月期に職員の新型コロナウイルス感染による2日間の作業所閉所、在宅支援への切り替

えがあったが、利用者には体調の変化や気分のブレ等はなく落ち着いて在宅作業に取り組んでいただくことができた。

【組織運営】

* 職員の産休・育休や3年間一緒に過ごした職員の退職等、職員体制の大きな変動はあったものの、利用者が不穏状態に陥ることもなく、継続した支援を行うことができた。

* 利用者のご家族の高齢化に伴う入院や施設入所で、ご本人の生活スタイルの変化については本人の気持ちに寄り添いながら（自宅の生活を継続、グループホーム等の利用など）ご家族を含めた支援を行い、職員間や関係機関と情報共有に努めた。

【実践】

* 祝日開所日の増加に伴い、元気ハウスにいながらの多様なレクリエーション（DVD鑑賞、室内ゲーム、調理実習など）を行うことが出来た。利用者にとっても祝日開所が1つの楽しみとなり、次回は何をしようか？どこへ行こうか？といった提案や希望が作業活動中の会話で飛び交うことが増えた。

* 作業活動の中で、20年以上の契約を結んでいたゲインズの仕事を利用者の高齢化や一部利用者の負担の増加を考慮し、2022年12月をもって終了とした。2023年2月より新たにバローレとの契約を結び、より多くの利用者に関われるような軽作業を行い、特定の利用者には負担がかからないような仕事環境を作り出すことに努めた。

* 今までに受けてきた作業のノウハウを活かし明治学院大学のお知らせの発送業務やチャレンジド・アソウのチラシ折りなどを進めることが出来た。

【活動】

* きょうされん署名活動は前年同様、利用者本人やご家族を中心に集めることが出来た。

* 今年度よりきょうされん冬季物資の受付・発送を承ったことにより、商品の仕分けや配達等に利用者が積極的に携われる機会を設けることが出来た。

【まとめ】

* 今年度は職員体制や契約企業様の変更等、変化の多い年度になったが利用者の動揺等はなく、新たな環境に適応していく姿が印象的だった。

また、産休に入る職員や退職する職員に「元気な赤ちゃんを産んでね」「復帰を待っているね」「いままでありがとう、がんばってね」という声をかけたりする場面もあり、一層元気ハウスとしての一体感が高まったように思えた。

グループホームなかよし 2022 年度事業報告書

2023 年 6 月 11 日

グループホームなかよし

【事業実績】

月別・年間利用者数

	開 所 日	GH かの里	GH なかよし	GH 横井	GH 吉津 GH さくら	GH 戸田	GH あらこ	合計	前年 度比
2022/4	30	296(269)	120(120)	90(120)	90(90)	93(92)	70(40)	759(731)	104%
2022/5	31	305(279)	124(124)	98(124)	93(93)	97(93)	69(31)	786(744)	106%
2022/6	30	296(269)	120(120)	101(120)	90(93)	90(90)	68(36)	765(728)	105%
2022/7	31	306(279)	122(124)	97(124)	93(93)	93(104)	66(27)	777(751)	103%
2022/8	31	306(278)	119(124)	93(124)	93(93)	93(124)	71(41)	775(784)	99%
2022/9	30	287(242)	120(120)	92(99)	90(90)	90(103)	70(42)	749(696)	108%
2022/10	31	305(257)	124(124)	93(93)	93(93)	122(93)	71(48)	808(708)	114%
2022/11	30	266(270)	120(120)	90(90)	90(90)	120(90)	64(64)	750(724)	104%
2022/12	31	271(277)	122(122)	92(93)	93(93)	124(93)	66(65)	768(743)	103%
2023/1	31	265(277)	122(122)	92(92)	93(93)	124(93)	68(65)	764(742)	103%
2023/2	28	269(276)	112(112)	84(84)	84(84)	112(84)	68(61)	729(701)	104%
2023/3	31	300(305)	96(124)	93(93)	93(93)	124(93)	77(76)	783(784)	100%
合計	365	3472(3278)	1421(1456)	1115(1256)	1095(1098)	1282(1152)	828(596)	9213(8836)	104%

年間平均利用回数（日別）

9213 ÷ 365 = 25.3（小数点第 2 位以下切り上げ）

年間平均利用回数（月別）

9213 ÷ 12 = 767.8（小数点第 2 位以下切り上げ）

現在入居者数（新規入居者 2 名 退所者 1 名）

	グループホーム名	定員	現利用数	空き状況	使用率
1	グループホームなかよし	4	4	0	100%
2	グループホームかの里	10	10	0	100%
3	グループホーム戸田	4	4	0	100%
4	グループホームさくら	3	3	0	100%
5	グループホーム横井	4	3	1	75%
6	グループホームあらこ	3	3	0	100%
	合計	28	27	1	96%

区分別利用者数

区分1	0
区分2	10
区分3	11
区分4	4
区分5	2
区分6	0
合計	27

性別・年齢別

	18歳 未満	18- 29歳	30～ 49歳	50～ 64歳 以上	65歳 以上
男性	0	2	3	9	3
女性	0	0	6	3	1
合計	0	2	9	12	4

【事業内容】

食事提供・健康管理（服薬・衛生）・金銭管理・入退院時支援・夜間支援・通院受診支援・緊急時対応、他サービス利用における連絡調整、日常生活のサポート

【はじめに】

2022年度は成人年齢の引き下げに始まり、32年ぶりの円安水準、度重なる物価高騰など、生活そのものの根底が揺らぐような変化が起きました。新型コロナウイルス感染症による影響も続いており、グループホーム内でも数名の陽性者が発生しました。年度末にはマスクの自由化が始まるなど、感染症に対する制限が緩んでいく中、利用者の健康を守りつつ、ストレスにならないような支援体制や環境整備に努めました。

【組織運営】

2022年度は管理者1名、サービス管理責任者1名、世話人8名、生活支援員6名で開始しました。2022年9月に変形労働時間制の採用、2023年2月にサービス管理責任者の変更があり、現在は世話人8名、生活支援員9名での運営を行っています。

2022年5月に支援につなげやすい環境づくりとして、グループホーム戸田1階へグループホームさくらを開所しました。それに伴い、グループホーム吉津を閉所し利用者の移動を行いました。

利用状況については、新規入所者2名、退所者1名となり定員28名に対して27名の利用状況となっています。

【実践】

アセスメントの実施、モニタリングや個別支援計画の見直しなどを行うとともに変形労働時間制の採用により隙間時間のない支援体制づくりに努め、利用者のニーズに沿った支援について取り組みました。また、必要に応じて面談や担当者会議を行うことで課題の把握に努め、解決に向けての支援を実践してきました。認定調査においては利用者さんに不利益と思われる場合であれば再認定調査を実施し、適正な結果となるように支援を行い、数名の方に区分変更がありました。また、消防計画の作成及び避難訓練の実施を行いました。

新型コロナウイルスの感染対策としては継続して消毒の徹底や自室での食事提供、職員のスクリーニング検査、抗原検査などを実施しました。2022年7月に職員2名、12月に職員1名、利用者3名。2023年1月に利用者1名、3月に利用者1名がコロナ陽性となりました。職員は自宅待機、利用者は感染対策を行った上で自室待機としました。ゾーニングや消毒の徹底、共有スペースの制限、訪問看護の利用などを行い、感染拡大には至りませんでした。また、日中活動の場から陽性者が発生し濃厚接触者となる、作業所の閉所などがありホームにて自室待機する利用者も数名発生しましたが、サービス利用機関と連絡・調整を行い、精神面でのケアに努めました。

また、虐待防止に関して研修を行い支援における職員の意識向上に努めました。

【活動】

コロナの影響から、イベントの中止などもありましたが、中川区自立支援連絡協議会への参加を行いました。その他にもあいされんの暮らしの場交流会への参加をはじめ昨年に続き署名運動への取り組みやオンライン会議などの参加を行い、障害者問題への取り組みを行いました。また、利用者の生活に直結する生活保護の引き下げ裁判などにも注目しています。

【まとめ】

2022年度はグループホーム内でのコロナ感染が相次ぎ、非常時の対応を迫られる場面が多くありました。利用者もいつ感染するかといった不安の中で生活することとなり、強いストレスを感じる利用者も見られました。非常時の職員体制などをもう一度見直すきっかけとなり、利用者が安心して生活できる環境を整えるため、体制の強化・充実に努めていく必要があると感じました。昨今の物価高騰による運営の厳しさ、職員不足による夜間支援までの隙間時間の多さ、夜間支援体制の確立、人員不足など、課題が多く残っています。

2022年度 デイサービスセンターなかよし事業報告

2023年6月11日

【 事業実績 】

定員	24名
登録者数	44名
開所日	火曜日～土曜日 週5日（但し祝日は休み）
時間	8:30 ～ 17:30
事業実績地域	中川区、中村区、港区、千種区、蟹江町、大治町、あま市、
営業日	245日
年間延利用者数	3813名
新規利用者	7名
退所者	3名

【 事業内容 】

昼食、入浴、送迎、創作的活動、社会適応訓練、レクレーション、相談業務

【 取り組み 】

防災訓練、ものづくり、絵画、書道、季節の企画など

【 スケジュール 】

4月	お花見	10月	ハロウィンパーティー
5月		11月	外出レク（名古屋市科学館、でんきの科学館）
6月	はぼたんマルシェ	12月	クリスマス会
7月	七夕納涼会	1月	初詣
8月		2月	節分
9月	防災訓練	3月	法人交流会、防災訓練

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所 日数	21	18	22	22	20	21	21	20	19	20	19	22	245
利用 人数	35	34	35	38	36	36	34	36	34	34	38	35	
延人数	317	280	339	345	324	320	309	327	290	316	305	346	3816
月平均	15.0	15.5	15.4	15.6	16.2	15.2	14.7	16.3	15.2	15.8	16.0	15.7	

デイサービスが統合され、1年が経ちました。プログラムでの過ごし方など、日常的な出来事に関しては共通認識を持つことができ、それぞれの時間を過ごすことができるようになってきたように感じます。職員だけではなく、利用者側からも様々な意見を出していただきながら、今できる過ごし方を検討していきました。コロナウイルスの蔓延により、レクレーションなどの企画がなかなか立てられないこともありました。さらに1月にはデイサービス内で職員・利用者が感染し、4日間の閉所をすることがありました。閉所をしましたが、利用者の大きな動揺には繋がらず在宅支援での取り組みに一時的に移行をすることができました。

【 組織運営 】

利用者数の大きな増加は見られませんでした。継続的な利用をしていた利用者の入院や引っ越し（GH等への入所）など生活スタイルの変化での退所がありました。見学等については連絡をいただき、実施していますがひきこもり傾向の強い方や、入院などの医療が近い環境にある方が多く、体験にもなかなか繋げることができず契約には至っていません。そのため運営が厳しい状況にあります。登録者数については定員の倍の人数の方が登録をされている状態です。まずは現在利用されている利用者さんに対する継続した利用について考えていく必要があります。

4月に1名配属、6月に1名退職、8月に職員が1名退職し、9月と11月に配属、11月から休職1名となりました。これまでのような安定した職員体制の継続が難しい状況がありました。互いにフォローをしながら、できる限り変わらない支援を継続できるよう調整しておこなってきました。

【 実践 】

統合し、1年が経ち利用者にとって慣れた環境になりました。1日の流れも慣れ始め、やってみたいことなど利用者から意見を出されるようになりました。利用者の意識の変化を感じるようになりました。さらにあじさいコンサートやSSTなど出向く企画でも積極的に参加される方が多く、これまでデイサービス以外の企画には参加したくないと感じられていた方でも、参加に対して抵抗感が減ってきているように感じます。まだ出向いて参加までは…と考えている方もいますがプログラム内に入れることへの抵抗はなくなりました。ウィズコロナへと移行されるため、出向いて参加できるようなイベントや企画を提案していきたいと考えています。

7月に日進市のあじさいコンサート（社会福祉法人あじさいの会主催）を鑑賞しました。多くの利用者が行きたいと希望をされ、ひまわりの家の職員にも協力をしていただきました。10月にはなかよしマーケットで作ったアクセサリーなどを販売しました。当日は閉所日にしていただいたため、利用者は公共交通機関を利用して法人本部まで来られました。法人の企画に対しても興味を持っているようでした。11月には日帰り旅行ででんきの科学館と名

古屋市科学館に行きました。基本的には自由行動でしたが、それぞれが誘い合いながら行動をされており、気分転換にもなり楽しまれていました。次はどこに行きたいなどの会話にもつながり、非日常的な活気のある企画の必要性を改めて感じました。3月の法人交流会では緊張をされていましたが、まずは一緒に過ごしてみることはできたと思います。そこからデイサービスだけではなく、法人の所属意識や法人だよりの編集委員など法人の取り組みに繋がっていかねばと思います。

防災訓練に関してはプログラムの話し合いの中で、防災訓練の月になったからプログラムに入れようと利用者から発言があるなど、ルーティン化されてきたものもあります。その他にもルーティン化されている事もあるため、新しいものを取り入れるだけではなく今できている事も大切にしていきたいです。

【 活動 】

デイサービス内できょうされんの署名活動をおこないました。きょうされんの活動に興味を持っている方も多く、TOMOやきょうされんが発行しているポスターなど自主的に読んでいる方も多く、共有スペースで置くようになりました。その結果、わからないことを職員に質問をして知識として蓄え、時事的なニュースなどにも興味を持つようになったと考えられます。

【 まとめ 】

新たな課題が多くあり、利用者と共に課題を乗り越えていく必要性を感じました。過ごし方や、地域社会への参加の方法については今後話し合いを重ね、個々に合わせた支援も視野に入れながら取り組みたいと思います。

2022年度 相談支援事業所なかよし事業報告

2023年4月1日

〈 事業実績 〉

開所日 月曜日～金曜日 (245日)

時間 8:30 ～ 17:00

事業実績地域 中川区、中村区、港区、南区、瑞穂区、津島市、蟹江町
大治町、あま市、愛西市、多治見市

計画作成総数(サービス利用計画・継続サービス利用計画、集中支援加算【訪問】)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
計画	6	7	5	3	4	4	8	4	6	5	5	3	60
継続	6	13	12	12	14	14	12	9	15	14	15	16	150
合計	12	20	17	15	18	18	20	13	21	19	20	19	210

〈 事業内容 〉

特定相談支援事業におけるサービス等利用計画の作成及び継続サービス等利用計画の作成。

〈 組織運営 〉

2022年度は、管理者(非常勤)1名と相談支援専門員(常勤)1名に加え、事務員(非常勤)1名の体制で運営をおこないました。法人全体の運営を考え、新しい相談支援専門員としてグループホームの職員1名が新たに相談支援専門員として研修を受けました。当該職員が相談支援専門員として活動をおこなう予定はありませんが、今後の新たな事業展開を検討するうえで必要な研修だったと思います。

相談支援事業所はこれまでも相談支援専門員が一人でケースを担当しており、相談支援専門員の負担は大きくなっています。一方で一人が負担するケースについては負担が大きくならないように配慮し、法人内のケースについては各事業所がサポート体制を組んで対応しています。キーパーソンが不在となるケースや一日に複数回の連絡や訪問が必要なケースもみられ、相談支援専門員の力量が試される1年であったと感じています。これからも相談支援専門員1人だけでケースを抱え込むのではなく、法人内だけではなく、法人外の事業所とも連携を図り、一人でも多くの利用者の笑顔がみられるような支援を提供していくことが出来ればと思っています。

